

サイ・テラ 知と技の発信

[290]

埼玉大学・理工学研究の現場

■匂い分子

皆さんが匂いを感じているとき、匂いのものである分子の存在を意識したことはありませんか？人が匂いを感じるには、匂いを感じる有機分子が必要で、つまり匂いについて知るためには、もとである有機分子に



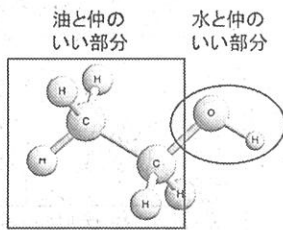
はせがわ・としお 57年生。83年東京大学大学院理学系研究科有機化学専攻修了。理学博士。埼玉大学教養部教務職員、同理学部基礎化学科助手を経て07年から現職。専門は香料化学、天然物化学。

匂い作るのは有機分子

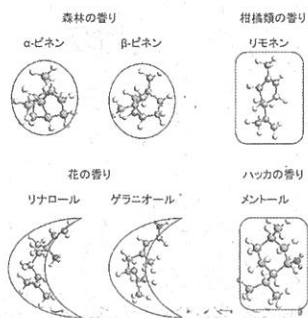
長谷川登志夫 准教授

分であり、料理や消毒などにも使われています。図に示したように、炭素原子2個と水素原子6個、酸素原子1個から作られ、水と仲の良い部分と油と仲の良い部分を持っています。

匂いを発する有機分子エタノールの形



実際の匂いのもとなる有機化合物



水洗いでは落ちない。例えはα-ピネンとβ-ピネンは形がよく似ていて、一緒に匂いを嗅ぐと、α-ピネンやβ-ピネンとは異なった匂いが感じられます。一方、柑橘類に多く含まれているリモネンは、α-ピネンとは形が異なるため、似ている分子とがあるのが分かりやすいです。最近の研究で、似た形の匂い分子が混ざると、個々の分子の匂いとは異なった別の匂いを示すようになることが分かっています。匂い分子同士の間で相互作用もいえる現象です。

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-795-9161 FAX 048-653-900
keizai@saitama-np.co.jp